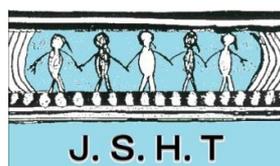


平成 22 年 2 月吉日

会員各位

特定非営利活動法人病理技術研究会
理事長 末吉 徳芳

特定非営利活動法人病理技術研究会 会員バッチの送付について



平成 20 年 10 月に任意団体であった病理技術研究会が東京都認定の特定非営利活動法人になり、英語名も Japanese Society of Histopathologic Technology (J.S.H.T) に変更になりました。NPO 法人化に伴い会員バッチを作成し、組織強化と NPO 法人化記念として作製しましたので、当会主催の行事や学会参加時に会員の証として身につけて出席をお願いいたします。

バッチデザインの由来；病理技術研究会誌「病理技術」の表紙に使用されているデザインを使用しました。（以下当会HPからの引用）由来については今から 6800～5000 年前とされる中国の新石器時代の仰韶（ヤンシャオ）の彩陶からアレンジしたものです。原図は彩陶舞踏人物文鉢と名付けられている青海省、大通県上孫家寒出土の陶器で、現在、北京の歴史博物館にあります。説明文によると手をつないで楽しく踊っている図だそうで原図にもゆれているおさげのような髪のに尻尾のような腰布？も描かれています。かねてから本誌の表紙のデザインには私達の仕事を手によって象徴したい、共同作業を手と手を結ぶことで表現したいとおぼろげに考えていました。まだ遥かな有史前の人間の文化遺産は、今の私達の仕事の原点とも考えられ、このデザインが私達のためにあったように嬉しく思われました。編集委員会で検討し、原図の尻尾はわかりにくいので除き、男性も女性のつもりで人物を 2 色に塗り分けたりして、デザインや色を選んで幹事会の承認を得て決めました。（－1983 年 6 月初旬 編集委員会 福島範子－）

バッチのデザインを理事会で承認して、限定登録番号入りバッチとしました。

バッチ裏に印字されているシリアル番号は今後、会員登録番号となりますので大切に保管をお願いいたします。また、今回配布するバッチは、予備や複製がありませんので取り扱いには、十分注意して頂きますようお願いいたします。

以上